

編 集 後 記

別府大学の英文学科と英語科の教員、卒業生、在學生、その他同好の人々の研究と親睦のためのものとしての、この学会誌の弥栄を衷心祈ってやまない。

また、本号には、ハワイ大学附属のLeeward Community CollegeのJohn Conner教授が、故池永正教授への丁重な追悼文をはるばる寄せていただき感謝にたえない。

なお、前号掲載の「昭和60年度別府大学英语英文学会報告」の欄で、英文学科4年、福島尊志君の‘A Study of E. Hemingway’s *For Whom the Bell Tolls*’ のことが、全くの手落から、原稿には明記されていたものが、何故か途中で脱落してしまい、申し訳のないことであった。

英文学科の研究室は、爽秋の候、新館5階の静かな、日射しの明るい所に移転した。

明窓下爽やかにしてNED

(安田)

学園創立80周年を迎えた昨年は、本学の学生20名が、6月下旬から3週間、恒例の「ハワイ大学サマーセッション」に参加、それを受けて、7月下旬から3週間、Leeward Community Collegeの学生たちの一行が、「第1回別府大学国際サマーセミナー」参加のため来学した。さらには、10月には、英語科へは、Pinky Chandler-Kobayashi先生の後任であるSue Mohr先生が、また英文学科へは、アメリカ本土からAndrew Valentine先生が、それぞれ講師として着任されるなど、英文学科、英語科にとっては、あわただしくもあり、充実した1年だった。この両先生は、昨年12月の本学英語・英文学会で講演して下さったうえに、本論叢にも論文をお寄せ下さるなど、いろいろな面で御協力いただいている。

来年は、本論叢もいよいよ20号を迎える。20号にふさわしい誌面作りのためにも、できるだけ数多くの方々の投稿を期待している。

(八幡)